

- ・失われた自然の水辺を再生 【約2割再生】
〈活力〉
- ・拠点空港や空港アクセス交通の整備を推進
- ・国際競争力の強化を目指し、国際海上コンテナターミナルの整備等により輸出入貨物の輸送コストを低減【5%減】
- ・環状道路の整備や路上工事の縮減等により交通渋滞・混雑を緩和 【道路渋滞による損失時間 38.1億人時間→約1割削減】
(国土交通省ホームページより抜粋)

2. ユニットプライス型積算方式について

国土交通省は、歩掛かりを用いない積算方式「施工単価方式（ユニットプライス方式）」に活用するデータ収集を、同省発注工

事を対象に早ければ平成16年1月にも開始する。
同方式を導入する工種を当面、舗装工（新設）、道路改良工、築堤護岸の3工種に絞り、まず、舗装工から先行してデータを集める。

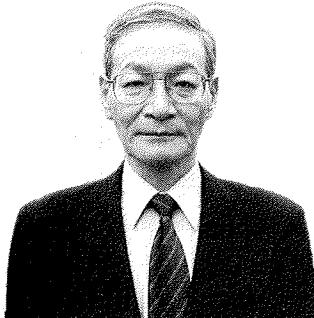
同省は平成16年10月から舗装工などで収集したデータをもとにした同方式による積算を開始する方針。
ユニットプライス方式は、平成15年度から国交省がスタートさせた「コスト構造改革」（計画期間平成15～19年度）の目玉施策の一つ。歩掛かりや労務単価、資材単価などを積上げる従来方式とは異なり、過去の入札実績データベース（DB）や積算実績DBなどから、1立方メートルや1平方メートル当たりの単価（ユニットプライス）を算出し、それに数量を掛合わせて積算する方式。（日刊建設工業新聞より抜粋）



—私の故郷たち—

日立住友重機械建機クレーン（株）開発本部長
岩盤削孔技術協議会理事

堺 俊巳



堺 俊巳(さかい としひ)
昭和24年7月4日 大分県生まれ
昭和47年 日立建機(株)入社
平成14年 日立住友重機械建機
クレーン(株)入社

■ “第一の故郷” の思い出

佐賀関町で漁師の子供として生まれ、その後大学時代までが私の第一の故郷 佐賀関の思い出です。今でこそ関アジ、関サバの産地として全国的に有名になりましたが、当時は片田舎の漁師町でした。佐賀関は海や山の幸に恵まれた自然 豊かな町で、大学時代は夏休みに毎日親父と一緒に漁に出で新米の漁師生活も経験しました。

最初の頃は、早い潮流と一本釣に大苦戦しましたが、慣れて来ると親父とほぼ対等に釣れだし、一番の釣果は約1mの大ブリを一日で十匹以上釣った事です。魚の釣れる時間やポイントに導かれ、仕掛けまで用意して貰っている事を忘れて一人前の漁師気取りをしていました時の自分を思うと、多少恥ずかしくなってきます。

親父は今でも一人で漁に出て、時々美味しい関アジ、関サバを送ってくれます。たまには帰省して酒でも酌み交わさねばといつも反省しています。

■ “第二の故郷” の思い出

日立建機（株）入社後間もなく足立工場が茨城県の土浦工場への統合となり移転しました。私も千代田町（当時は千代田村）住民となり、早28年経ちここが私の第二の故郷となりました。転居当初、親父から「ずいぶん田舎の住所だが、電気や水道は来ているか」と電話が有り、大笑した記憶が有ります。

土浦工場は職場対抗のスポーツ行事が盛んで、私も同僚と軟

式野球を始めました。投手で初登板した時、四球の連発で試合を潰した苦い経験も有りました。その後、球筋も安定し、偶々一度だけ完全試合を達成し年末表彰も受けました。選手全員が全力を出しても容易に達成し得無い試合だけに、同僚と祝杯を挙げて喜んだ楽しい思い出も有ります。

野球の次は硬式テニスを始めました。毎週末の午前中はテニスと決めて、約15年間続けて来ましたが、腕前の方はさほども上達せず現在に至っています。ただ、毎週末運動と汗をかくことでストレスの解消やお酒が美味しく飲める事等テニスを続けて来て良かったと思っています。

■ “第三の故郷” としての願い

我が社は、日立建機（株）と住友重機械建機クレーン（株）のクレーン関連事業を全て継承して、一昨年7月に設立された新会社ですが、世界NO.1のクローラクレーンサプライヤを合言葉に社員一同一丸となってスタートしました。

開発本部の初仕事は、開発コンセプト（シンプル、洗練、安心）を具現化したSCX900-2（90t吊）クローラクレーンを昨春開発した事です。本開発では、モジュール化設計の徹底と3D-CADの本格採用を行いました。本機には、新開発の切が良く、効きも良い湿式多板ブレーキやLAN上で対話式でビジュアルな新モーメントリミッタ等の新技術を採用しています。今後は、これらを北米や欧州仕様機に適用してグローバル展開を早期に進めて行きます。

この新しい会社、職場が私の第三の故郷として、今後、第一、第二の故郷と同様に有意義で楽しい思い出が一杯残るよう、全力を尽くして努力する所存です。